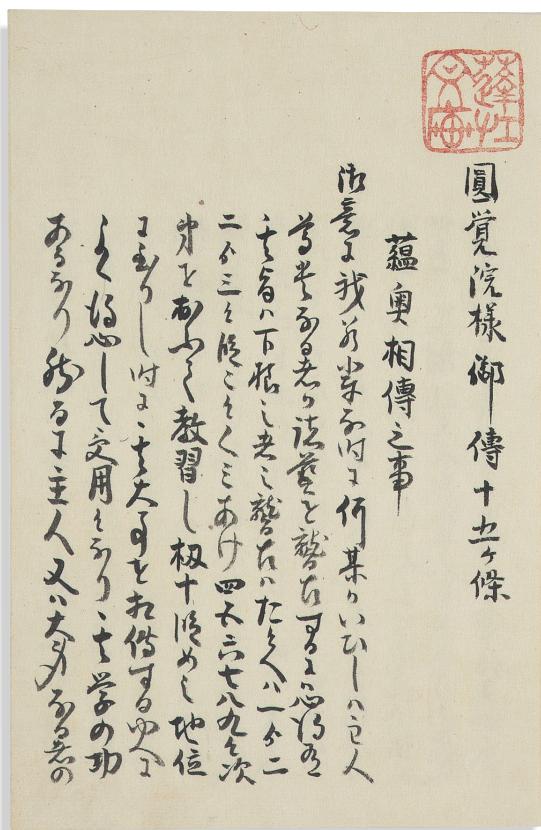
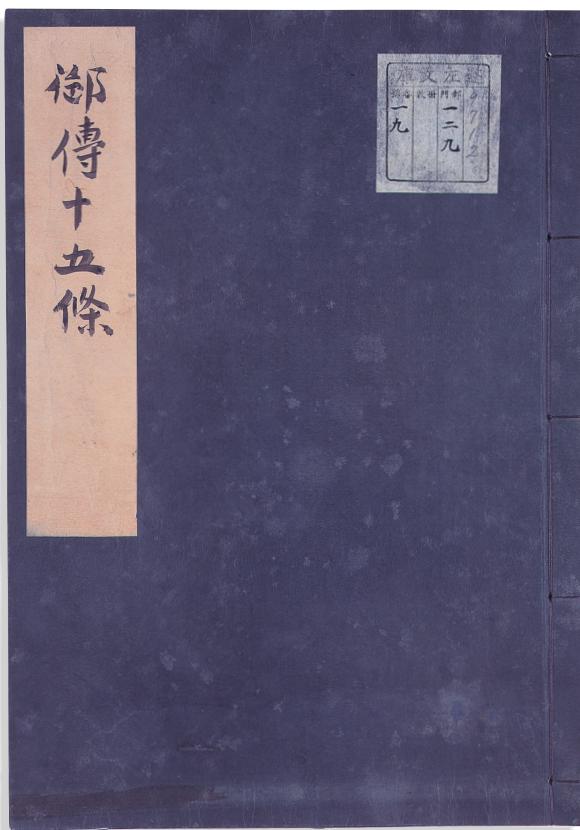


蓬左
HÔSA



卷頭



「圓覺院様御傳十五箇條」表紙

4月11日～5月27日

春季特別展
尾張の殿様物語

5月30日～7月22日

城下のお寺 相応寺

絵図・書物による
熱田の歴史と文化

以上、三つの展覧会については、本紙4～7頁
を参考ください。

7月25日～9月30日



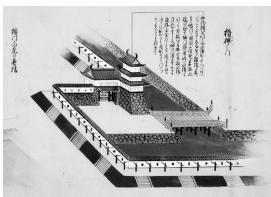
江戸の中国趣味

中国の文化が日本に与えてきた影響の大きさは、はかり知れません。もっとも身近な「異国」として、中国が近代以前の日本人の脳裏を離ることはありませんでした。本展では、長い年月の間に日本文化に定着した正統派の中国文化に加え、江戸時代になってからもたらされ、ごく一部の人間で愛好された「中国趣味」の世界を紹介します。

7月25日～9月30日

江戸の歴史と文化

戦国の世、日本各地の城で幾多の攻防戦がありました。やがて泰平の徳川の世となり、城は要塞から日常的には「お城」として幕府・大名権力の視覚的象徴へと変化しました。しかし合戦を



想定した守備の姿勢が城から失われたわけではありません。この展覧会では、城絵図や写真パネル等を用い、現存する城に見る戦国の名残を紹介します。

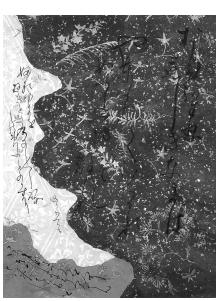
10月3日～11月4日

秋季特別展
王朝美の精華・石山切
～かなと料紙の競演～

「石山切」は平安時代・天永三年（一二二二）に催された、白河法皇の六十賀に際して調進されたと考えられている国宝『本願寺本三十六人家集』のうち、「貫之集」下・「伊勢集」の断簡です。

昭和四年（一九二九）に分割されるに際し、本願寺がもとあつた摂津の石山（現在の大坂城付近）にちなんで名付けられました。色調や文様・装飾を違えた数種類の紙を継ぎ合わせた「継紙」をはじめとする華麗極まりない料紙の美しさ、優美な連綿の仮名とがあいまって、十二世紀初頭における宮廷の人々の善美を尽くした世界がくり広げられています。「石山切」を中心的に、

王朝の美の真髓を探求します。さらに、三十六人の歌仙たちの姿についても取り上げます。



11月7日～12月9日

絵手本・雛形
～近世のイメージ・アーカイヴ～

江戸時代、さまざまのテーマの図様を集めた絵手本・画譜類、また雛形と呼ばれる図案集が盛んに享受されました。それらは、絵画や工芸品を製作する際の手本であると同時に、



戦時の世、日本各地の城で幾多の攻防戦がありました。やがて泰平の徳川の世となり、城は要塞から日常的には「お城」として幕府・大名権力の儀礼の端を明確化する役割がありました。

これらの儀礼は、自身の幸福や子孫繁栄、武運の向上や国土領民の安泰などを祈るために行われました。また平和な時代にあつては、将军と大名や、大名と家臣との主従関係を確認する役割がありました。

大名家の儀礼
～近世のイメージ・アーカイヴ～

江戸時代の大名家では、お正月や三月三日の「上巳」などの年中行事や臨時の行事、また誕生から亡くなるまでの間に行われる通過儀礼や大名家ならではの儀礼が行われていました。

これらの儀礼は、自身の幸福や子孫繁栄、武運の向上や国土領民の安泰などを祈るために行われました。また平和な時代にあつては、将军と大名や、大名と家臣との主従関係を確認する役割がありました。



20年1月4日～2月17日

姫君のよそい

江戸時代の武家社会では、上下関係を明確に示すために、厳格な服飾制度が敷かれていました。姫君の衣服も例外ではなく、季節や日時、年齢などにより、その装いは衣服・髪型にいたるまで、細かな決め事に左右されました。こうした服飾にまつわる史料とともに、姫君たちの衣服や装身具、化粧道具など、

その華麗なる世界を紹介します。



20年2月20日～3月30日

駿河御譲本

大御所家康が駿府城にて生涯を閉じた際、彼が収集し手元に置いていた日本および東洋の貴重書は、遺産として彼の九男義直

（尾張家）・十男頼宣（紀伊家）・

十一男頼房（水戸家）へと分与されました。これを「駿河御譲本」といいます。このうち尾張家に伝わり、現在の蓬左文庫の核となっているものについて、重要文化財を中心に公開します。



大名家の儀礼

江戸時代の大名家では、お正月や三月三日の「上巳」などの年中行事や臨時の行事、また誕生から亡くなるまでの間に行われる通過儀礼

や大名家ならではの儀礼が行われていました。これらは、自身の幸福や子孫繁栄、武運の向上や国土領民の安泰などを祈るために行われました。また平和な時代にあつては、将军と大名や、大名と家臣との主従関係を確認する役割がありました。

尾張徳川家に伝えられた年中行事に使われた遺品や関連作品から、江戸時代の大名家の儀礼の一端を明らかにします。

大名家の儀礼

江戸時代の大名家では、お正月や三月三日の「上巳」などの年中行事や臨時の行事、また誕生から亡くなるまでの間に行われる通過儀礼や大名家ならではの儀礼が行われていました。これらは、自身の幸福や子孫繁栄、武運の向上や国土領民の安泰などを祈るために行われました。また平和な時代にあつては、将军と大名や、大名と家臣との主従関係を確認する役割がありました。

尾張徳川家に伝えられた年中行事に使われた遺品や関連作品から、江戸時代の大名家の儀礼の一端を明らかにします。

尾張藩士の世界
～系図と分限帳～

積（アーカイヴ）であつたとも言えます。発想の源とも言うべき、絵手本・雛形の数々を紹介します。

系図は家族の血縁関係を書きあらわしたもので、尾張藩士の家では、先祖の藩への功績が重視されています。他方、分限帳は、藩主のもとで役職や部隊に編成された藩士たちの名簿です。蓬左文庫に所蔵された系図分限帳から藩士たちの血縁関係や役職を介したつながりをさぐります。

19年度 展示スケジュール

	蓬左文庫 展示室1	蓬左文庫 展示室2	徳川美術館 常設展示室	徳川美術館 企画展示室
4月	こころの旅 ~ 4月8日	南蛮・紅毛の学問 ~ 4月8日		雛まつり ~ 4月8日
5月	春季特別展 尾張の殿様物語 4月11日 ~ 5月27日			春季特別展 尾張の殿様物語 4月14日~5月27日
6月				
7月	城下のお寺 相応寺 5月30日 ~ 7月22日	源氏物語の世界※	絵図・書物にみる 熱田の歴史と文化 5月30日 ~ 7月22日	“水”七変化 6月2日 ~ 7月16日
8月				天下取りへの道 戦国の武将たち 7月21日 ~ 9月2日
9月	江戸の中国趣味 7月25日 ~ 9月30日		城と構造 7月25日 ~ 9月30日	修復された宝物 9月8日 ~ 9月30日
10月				秋季特別展 王朝美の精華・石山切 10月6日 ~ 11月4日
11月	秋季特別展 王朝美の精華・石山切 一かなと料紙の競演一 10月3日 ~ 11月4日			
12月	絵手本・雛形 —近世のイメージ・アーカイヴ— 11月7日 ~ 12月9日	源氏物語の世界※	駿河御譲本 11月7日 ~ 12月9日	よみがえる 源氏物語絵巻 11月10日 ~ 12月9日
20年 1月	12月11日 ~ 24日 12月25日 ~ 28日 12月29日 ~ 1月3日		特別整理休館 エントランス 閲覧室の開室 年末年始休館	12月10日 ~ 1月31日 年末年始および空調工事のための 臨時休館
2月	大名家の儀礼 1月4日 ~ 2月17日	源氏物語の世界※	尾張藩士の世界 —系図と分限帳— 1月4日 ~ 2月17日	
3月	姫君のよそおい 2月20日 ~ 3月30日		大名屋敷 2月20日 ~ 3月30日	特別展 尾張徳川家の雛まつり 2月1日 ~ 4月6日
				2月23日(火)～2月24日(水) 茶約公開
				3月2日(木)

■休館日 毎週月曜日(祝日の場合は直後の平日)

ただし、本年8月13日(月)は、開館いたします。

■特別整理休館日 12月11日(火)～24日(月)

■年末年始休館日 12月29日(土)～1月3日(木)

12月25日(火)～28日(金) 閲覧室は開室いたします。

※源氏物語に関する写本、絵画、工芸品などを順次入れ替えて展示

展示室1・2 徳川美術館本館（徳川美術館本館では4月14日(土)より開催）

春季特別展 尾張徳川家初代義直襲封400年記念

尾張の殿様物語

尾張徳川家初代義直が国持大名として尾張国を与えられてから、本年でちょうど四百年を迎える。これを記念した本展では、明治維新にいたるまでの歴代当主十六代のあゆみを振り返ります。

江戸時代の尾張家にとって、転機は少なくとも四度訪れました。一度目は、一代光友が三代將軍家光の息女千代姫と結婚し、二人の間に三代綱誠が生まれたこと。綱誠は、後の將軍家綱、綱吉の甥にあたり、家格がさらに高まりました。二度目は、七代宗春が謹慎を命じられ、分家から八代宗勝が家を嗣いだこと。これを境として、あらゆる面で大幅な刷新が行われました。三度目は、一橋治国の子斉朝が九代宗睦の養子となつて尾張家を嗣いで以来、将軍家がらみの養子の当主が四代続いたこと。家臣団の対立など家の内部に変化をもたらしました。四度目は、黒船来航をきっかけに表面化した幕藩体制の揺らぎ。十四代慶勝以降の当主たちは、明治維新に至る大きな変革の時代の中で、従来とは異なる政治的役割を担うことになりました。

尾張家の最も大きな特色は、家康が創出した家である点です。義直の兄たちは、將軍秀忠を除き、みな他家の養子となっています。しかし義直を頭と

する三人の兄弟、いわゆる御三家は、家康の意向で徳川姓のまま大名となりました。歴史実績とは無関係に生み出された御三家のため、家康は、家を支える基盤整備に意を注ぎました。その一つが資産であり、もう一つが人材でした。

尾張家の資産にはまず尾張国をはじめ六十一万石余の封土があり、さらに金鯱をいただく名古屋城、木曽山の山林資源、そして駿府御分物という家康の遺産があります。また人材では、家康自ら成瀬・竹腰など有能な家臣団を編成して義直に付属させ、義直ら三人の息子を亡くなるまで膝下で教育しました。家康の熏陶を受け、義直は文武両道に秀でた人物として成長し、後代の当主の模範となりました。

重要文化財 短刀 無銘 貞宗
徳川家康所用（徳川美術館蔵）
めいぶつ たんとう むめい さだむね
ものよし さだむね

徳川家康の愛刀で、所持すると必ず勝利したことから「物吉」と名付けられたと伝えられる。尾張家において最も大切に相伝された刀剣の一つ。



阿弥陀如來像（お龜の方念持仏）
(京都市・清涼院蔵)
あみだ よらいぞう かめ かたねんじぶつ

義直の生母お龜の方ゆかりの秘仏。高さ3センチの小像で、別の阿弥陀像の胎内に納められている。お龜の方はこの像に日夜男子誕生を祈った。初公開。



さんぶぎょうれつず
参府行列図 小田切春江筆(徳川美術館蔵)



重要美術品 さんすいぞく 山水図 德川光友(二代)自画贊(徳川美術館蔵)

二代光友は書画に秀でた。絵は狩野探幽に学んだという。本図は中国南宋の瀟湘八景図を摸している。



きそざいもくさりだしぞ
木曾材木伐出図(部分) (個人蔵)

ヒノキの良材を産出する木曽山は、義直が浅野幸長の娘春姫と結婚した際、家康が化粧料として与えた所領で、尾張家だけの特別な資産であった。

きりほうとうもんかじづきん
桐鳳凰文火事頭巾・
からじしはたんもんかじばおり
唐獅子牡丹文火事羽織
徳川宗春(七代)着用
(徳川美術館蔵)



こうふくじぞうよしつねよろいひながた
興福寺蔵義經鎧雛形

寛政元年(1789)に幕府御用絵師の板谷慶舟が所持した雛形を写した品で、各部位ごとに本物とほぼ同じ大きさで精巧に作られている。復古的な関心の高まりのなか、九代宗睦の周辺で製作されたと見られる。

城下のお寺 相応寺

尾張徳川家初代義直は、生母の相応院お亀の方が寛永十九年（一六四二）に亡くなると、翌年城下に寺を創建しました。お亀の方にちなんで宝亀山公安院・相応寺と名付け、浄土宗知恩院の末寺としました。以後、尾張徳川家の子女らの位牌を祀る寺として信仰され、境内は三千坪余りの広大な敷地に本堂や書院が整備されました。

創建にあたり駿府でお亀の方の住まいであった駿河御殿が移築されたとの伝承があります。現存している書院の花鳥図襖絵（名古屋市博物館蔵）は当時の豪華な姿をしのばせます。また近世風俗図屏風のなかでは傑出した出来映えの遊楽図屏風（重要文化財・徳川美術館蔵）は金地の画面に酒宴や踊り、カルタ遊びなどの遊楽が生き生きと描かれています。「相応寺屏風」という別名が伝えられ、この屏風も江戸時代中期になつて尾張家からお寺に納められました。

創建当初は蓬左文庫・徳川美術館に近い東区山口町あたりに位置していましたが、昭和九年（一九三四）千種区末盛の地に移転しました。この展覧会では徳川美術館、蓬左文庫、名古屋市博物館に残る作品を中心に、江戸時代の壯麗な相応寺を見直します。（会期中一部展示替えあり）

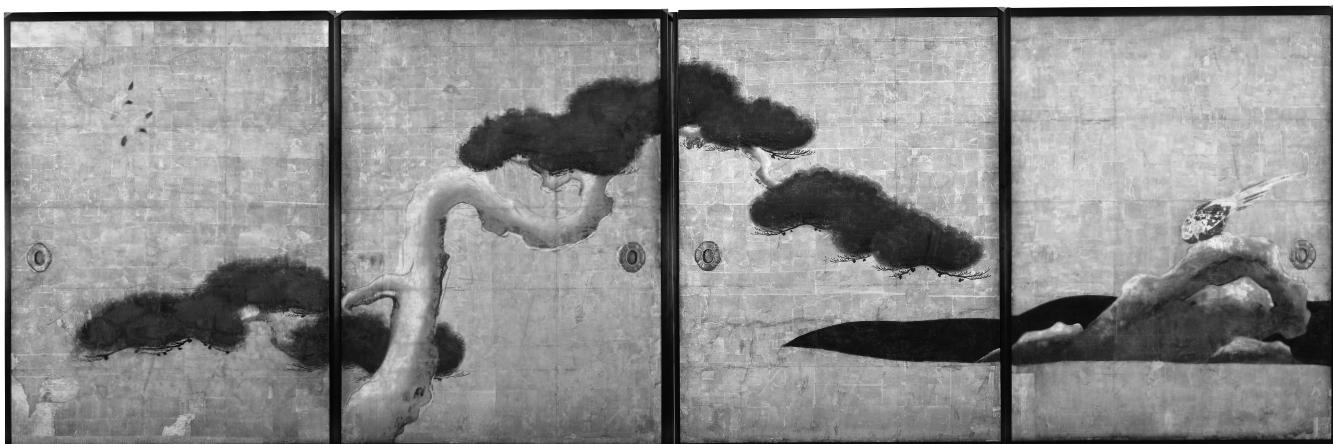
重要文化財 遊楽図屏風（部分）
八曲一双（徳川美術館蔵）

三代綱誠の十九男松平通温（1730年歿）の遺愛品として、相応寺に納められた。



相応院画像（部分）
狩野探雪筆 一幅（徳川美術館蔵）

お亀の方は、寛永19年（1642）67歳で亡くなつた。晩年の姿の画像。



愛知県指定文化財 松に鳥図襖 四面 相応寺旧蔵障壁画のうち（名古屋市博物館蔵）

絵図・書物にみる熱田の歴史と文化

あつた ごうそう ざ
熱田郷総図(部分)
内藤東甫「張州雑志」
巻二十六

安永3年(1774)ころの
熱田の町を描いている。



伊勢湾の北岸にある尾張熱田社(名古屋市熱田区)は、草薙剣を祭る古代以来の有力神社であり、京都の朝廷をはじめとして、広く崇敬を集めました。熱田社の門前町として始まったと思われる熱田の町は、その背後に肥沃な濃尾平野を控え、水陸交通の要地に位置していたこともあって、戦国期には有数の港湾都市に成長しました。

慶長十五年(1610)の名古屋築城により、名古屋が政治・経済の中心となると、名古屋城下から熱田に通じる運河、堀川が開削されて、米・木材・塩などの物資が、熱田の港から堀川を利用して名古屋へ運ばれました。伊勢桑名への七里の渡しで知られる東海道屈指の宿場町(宮の宿)としても繁栄しました。文化面でも熱田社関係者を中心に発展を遂げました。

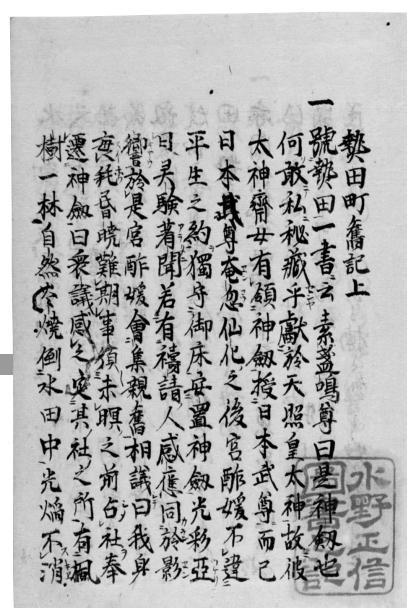
主に、中世から江戸期までの熱田の歴史と文化に関する資料を、蓬左文庫の絵図・書物から紹介します。

お知らせ

今年度から、特別展の期間をのぞく通常展示のなかで、「源氏物語」にまつわる写本をはじめ、絵画・書籍・工芸品など、その成立以来さまざまなかたちで享受されてきた「源氏物語」の世界を紹介します。(展示室1で「一
ナーフ展示)

あつた まち きゆうき
熱田町旧記 卷首

元禄12年(1699)成立
の熱田の町の地誌。



表紙の「円覚院様御伝十五箇条」は、

尾張徳川家四代吉通（一六八九～一七一三、法名円覚院）が、側近に物語ったことがらを、当時小姓だった近松茂矩（しげのり、一六九七～一七七八）が、晩年の明和元年（一七六四）に編集しました。

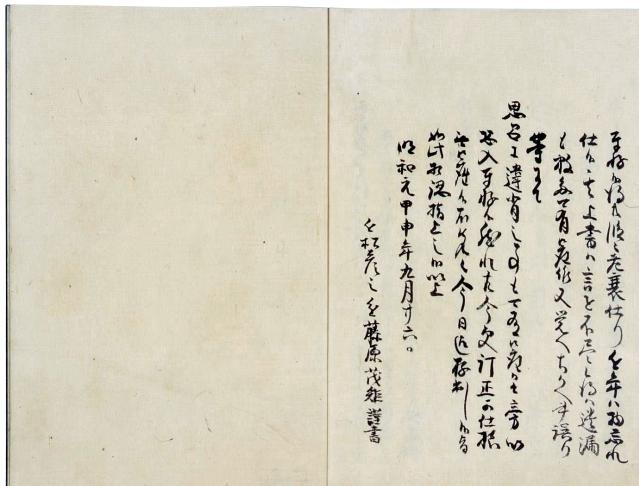
近松茂矩が仕えてわずか数ヶ月で徳川吉通は亡くなりますが、嫡男五郎太（一七一一～一三）の教育を任されるほど吉通からの信頼を得ました。茂矩も吉通に傾倒し、兵学に詳しかった吉通の勧めにより、その後長沼流兵学を学んで兵学者となりました。

徳川吉通の遺訓ともいいうべき本書の内容は、吉通に死別した直後より書き継がれました。近松茂矩は歴代尾張藩主にそれを伝えようと努力して実現できず、ようやく本書を編集するに至った苦心は、本書とともに残る「円覚院様御伝十五箇条輯録來由」に記載されています。

近松茂矩は、尾張藩内に長沼流兵学を本格的に伝え、江戸後期の尾張藩内で長沼流兵学が隆盛となる基礎を築きました。茂矩には本書のほかに、尾張藩主や藩士たちの逸話を記録した「昔咄」十冊（蓬左文庫蔵）をはじめ、多くの著作

があります。

なお、本書は、蓬左文庫・徳川美術館春季特別展「尾張の殿様物語」（会期等の詳細は4・5頁参照）に出品されますので、是非ご覧下さい。



「円覚院様御伝十五箇条」
奥書

蓬左文庫

名古屋市蓬左文庫 〒461-0023 名古屋市東区徳川町1001番地 TEL(052)935-2173 FAX(052)935-2174
ホームページ <http://housa.city.nagoya.jp/> 〈蔵書検索もできます。〉

交通案内

■公共交通機関をご利用の場合

●名古屋駅より

【市バス】名古屋駅バスターミナル（テルミナ2F）グリーンホーム7番のりば基幹2号系統、「徳川園新出来」下車徒歩3分

【名鉄バス】名鉄バスセンター（メルサ3F）4番のりば基幹バス「引山」方面行「徳川園新出来」下車徒歩3分

【JR】JR中央本線、「大曾根」下車南出口より徒歩10分

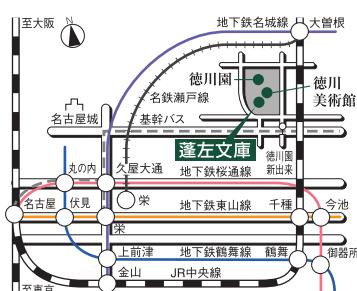
【地下鉄】東山線「藤が丘」方面行、「栄」で名城線「右回り」に乗り換える「大曾根」下車3番出口より徒歩15分 桜通線「野並」方面行、「車道」下車①番出口より徒歩15分

●栄より

【市バス】栄バスターミナル（オアシス21）3番のりば基幹2号系統、「徳川園新出来」下車徒歩3分

■お車をご利用の場合

蓬左文庫専用駐車場はありません。徳川園駐車場（有料 30分 120円）をご利用下さい。



ご利用案内

■休館日／月曜日（祝日のときは直後の平日） 12月中旬～1月3日 ※催事により変更することがあります。

■展示室／有料 一般:1200円 高大生:700円 小中生:500円（蓬左文庫・徳川美術館共通観覧）

【開室時間】午前10時～午後5時（入室は午後4時30分まで）

■閲覧室／無料・館外貸し出しはいたしません。

【閉架図書】午前9時30分～午前12時 午後1時～午後5時 【開架図書】午前9時30分～午後5時

【複写サービス】保存など支障のない範囲で、CD-Rからのプリントアウトまたはマイクロフィルム複写などの方法により行います。電話・郵便による申込みも可。

「蓬左」第73号 ☆平成19年4月11日発行 ☆編集・発行:名古屋市蓬左文庫 ☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷:菱源(株)
※この冊子は再生紙(古紙配合率100%、白色度80%)を使用しています。